

【金沢区】令和元年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和元年 9 月 4 日（水）15 時 00 分～16 時 30 分
場 所	金沢区役所 3 階 1 号会議室
出席者	<p>【座 長】 竹野内 猛 議員</p> <p>【議 員：4 名】 黒川 勝 議員、高橋 のりみ 議員、 谷田部 孝一 議員、小幡 正雄 議員</p> <p>【金沢区：31 名】 國原 章弘 区長、栗原 敏也 副区長、 木村 博和 福祉保健センター長、 千田 満 福祉保健センター担当部長、 脇本 景 金沢土木事務所長、 伊藤 賢司 金沢消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 平成 30 年度 個性ある区づくり推進費 決算状況について</p> <p>2 令和元年度 個性ある区づくり推進費 執行状況について</p> <p>3 令和 2 年度 金沢区予算編成の考え方</p>
発言の 要 旨	<p>《 1 平成 30 年度 個性ある区づくり推進費 決算状況について》 《 2 令和元年度 個性ある区づくり推進費 執行状況について》</p> <p>黒川議員：保育所による子育て支援事業の、公私保育園の連携による保育講座について教えてほしい。</p> <p>栗山学校連携・こども担当課長：本講座は、30 年度に試行実施し、今年度から正式な事業として 6 月 24 日に関東学院大学にて実施した。教育学部の学生 29 人に出席いただき、区内の 27 私立園に在籍する 37 人の保育士から、金沢区の特色、保育園の魅力、各園の特色等について、90 分間の講義と交流会を行った。また、園の特色やボランティア情報等を盛り込んだパンフレットを配布・周知した。なお、パンフレットは関東学院大学や市立大学で配架もしている。講座のアンケートでは、学生からは「とても丁寧に教えてくれたので、ボランティアに参加したいと思った」という回答や、保育園からは「引き続き実施してほしい」という回答があった。</p>

発言の
要旨

黒川議員：大学生を対象とした取組であるため、区内での就職や居住につながればと考えている。講座に参加した学生の就職状況はどうか。

栗山学校連携・こども担当課長：大学の講義を利用しているため、直接的な就職の斡旋はしていないが、講座の受講をきっかけにボランティアに従事した方が数名いた。区内の認可保育園に就職し、今回は保育園の説明者として本講座に参加した方もいた。今後も講座を継続し、園と学生が交流を持つことにより、保育士不足の解消の一助になることを期待している。

黒川議員：今後も就職につながる、また、就職した人が次世代育成につながるような取組を実施してほしい。

國原区長：関東学院大学、横浜市立大学が区内にある中で、既に臨海部の産業地域と学生を結びつけ、人材確保を図る取組が行われている。今後は、産学連携による取組に、保育人材も含めるよう検討していく。また、関東学院が看護学部を作ったことを受け、看護人材についても同様に検討する。

黒川議員：ウォーキングの参加人数や実績、地区ごとの実施としたことで生じた課題を伺いたい。また、市のウォーキングポイント事業に参加しているような方が地区のウォーキングにも参加しているのか。

高橋福祉保健課長：ウォーキングについては、今年度から地域の活動支援に事業転換した。具体的には、区内 14 地区ごとの保健活動推進員の定例会に保健師が参加し、開催支援を行っている。特にここ数年の間にウォーキングを開催していない地区については、開催に向けた役割分担やルート選定に関して助言を行った。また、救急セットや案内旗の配付もしている。

課題として、保健活動推進員の交代や減少があった地区に対し、ウォーキングを行う際の安全面の確保、ルート選定、役割分担等のノウハウを継承してもらうための支援が必要な点が挙げられる。

ウォーキングポイントに参加していない方も、地域のウォーキングには参加していると思われる。

黒川議員：地区ごとに分散して行うことで、ウォーキング活動自体が縮小

発言の
要旨

しないよう取り組んでほしい。また、参加者が増えた際には2回、3回と実施できるよう支援してほしい。

次に、金沢区暮らしや地域に関する意識調査事業について、多くの区民を対象にしたことで回収率は下がってないか。また、地域福祉保健計画の策定に役立てるとのことだが、地区ごとにデータを集計できるのか。

高橋福祉保健課長：平成 26 年度の前回調査の回収率は 53.7%、今回は 51.7%であり、大きな変化は無いと考えている。今回の調査では、地区連合単位での分析が可能となるよう調査対象人数を増やし、前回調査時の約 2 倍となる 4,664 件の回答があった。詳細な分析は今後行うが、地区連合単位での分析を行うための十分な回答は得られたと考えている。

黒川議員：金沢防災“えんづくり”事業について、地域防災拠点訓練指導員は消防団員が兼ねている場合はあるのか。

伊藤消防署長：消防団員への地域防災拠点訓練指導員の兼務を求めていることはないが、地域防災拠点訓練の中で消防団員が訓練指導することはある。

黒川議員：最後に、金沢臨海部産業活性化推進事業について、産業地域への就職支援として、並木ラボを活用した交流イベントであるココチャレウィークを行っているが、実際に就職に結びついた成果を伺いたい。

八谷区政推進課長：ココチャレウィークは、政策局男女共同参画推進課が実施するココチャレプロジェクトの一環として行っている。主婦層がメインターゲットのため必ずしもフルタイムではないが、本イベントに参加した方のうち、3名の方が就職した。

黒川議員：3名の方の就職に結びついたというのは喜ばしいこと。職住近接については、単発のイベントだけでなく、UR など関係機関との連携も視野に入れて、継続的に取り組んでほしい。

八谷区政推進課長：継続的な取組としては、並木ラボで LINKAI 横浜金沢の企業等の求人情報掲示等を実施し、実際に就職に結びついたと聞いてい

る。また、UR 等との連携という点では、LINKAI 企業従業員向けに臨海部の組合と UR が住まいに関する協定を結んだ。さらに、30 年度には環境未来都市推進事業の一環として、シーサイドタウン地区へのお試し居住を行った。

高橋議員：民生委員の定年制を見直せないかという相談を地域から受けている。市民局とも話したが、見直しは難しく、新しい人材を探していくしかないのではと考えている。区として、要望は把握しているか。

高橋福祉保健課長：民生委員については、市で定年制を設けているが、地域からは委員のなり手が見つからず、制度を見直してほしいとの相談も受けている。いただいた意見については、各区の福祉保健課長会で集約し、局に要望として伝えていく。

高橋議員：保育園に関する相談も受けている。現在、保育士不足によって定員割れをしている園はあるのか。

発言の
要旨

栗山学校連携・こども担当課長：保育士不足によって定員割れをしている園はない。年齢による要因だ。3～5歳は幼稚園に入る方もいるので、年齢による定員割れを起こしている場合はある。最近は0歳児の定員割れも増えてきている。

高橋議員：先日、民間の保育施設の経営に係る講演を聴講した。園の経営に関して非常に参考になると思うので、公立の園においても民間の手法を学ぶ機会を設け、効率的な経営を行ってほしい。

最後に、ごみ屋敷の件について、夏ごろに区で排出支援を行ったと聞いているが、その後のフォローはどのように行っているか。

高橋福祉保健課長：排出支援後は、高齢・障害支援課のケースワーカー、保健師による生活のサポートをし、再度ごみが溜まらないようフォローしている。また、地域の方々による排出支援後のフォローが得られている場合もある。

高橋議員：豪雨の際などは、近隣への衛生上の影響も懸念される。引き続

<p>発言の 要旨</p>	<p>き、積極的な支援をお願いしたい。</p> <p>小幡議員：金沢八景駅東口の整備について、通路や歩道はあるものの、高齢の方や障害のある方が車の乗り降りができるようなスペースがない。自由通路の付近も、バスやタクシー乗り場はあるが、一般の車両が停車できない。区から都市整備局にも対応を促してほしい。</p> <p>協本土木事務所長：御指摘の件については把握しているが、元々が限られたスペースであるため、高齢の方や障害のある方向けのスペースを新たに設けるのは難しい。現状は、利用者が柔軟に譲り合うことによって一般車の乗り降りをしている状況である。</p> <p>谷田部議員：金沢文庫駅の西口は現状落ち着いてきたように見えるが、その後の状況はどうか。喫煙者のたまり場があり吸殻が散見される、バス待ちの列が並び切れていないなどの課題があるように思える。</p> <p>高橋福祉保健課長：金沢文庫駅西口については、ポイ捨て防止に係る啓発活動として、ティッシュ配りなどを行った。</p> <p>谷田部議員：バスやタクシーの導線や、乗り場のスペースに問題はないか。</p> <p>協本土木事務所長：駅への送り迎えに来る一般車も多くいる中で、車両の流れは確保できており、問題は無いと考えている。</p> <p>谷田部議員：利用者の待機場所には行列ができてしまっている点にも問題を感じる。</p> <p>小幡議員：デッキを作るなどして、バス待ちのためのスペースを広げる必要があるように思う。検討してほしい。</p> <p>竹野内議員：発達障害への取組について、平成 30 年度にこども青少年局が実施した『横浜市子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査』において、これまで子どもの発達に関して医師の診断を受けたことがあるかと、との設問に対し、あるとの回答が 10.5%、そ</p>
-------------------	---

のうちの 77.9%が発達障害だったとの結果が示されている。

金沢区の状況について伺いたい。

鎌田こども家庭支援課長：現場の実感として、軽度の知的障害、発達障害のある子どもは増えていると感じている。愛の手帳の交付件数についても、平成 20 年度は 317 件であったのに対し、30 年度は 625 件となっており、子どもの数が減っているのに対し、倍増している。また、横浜市南部地域療育センターの初診件数について、平成 28 年度は 463 件だったが、30 年度は 534 件に増えている。

竹野内議員：発達障害にも多様な種類がある。私自身は障害、病気というよりも子どもの個性と捉える方が正確と考えてはいるが、本人の得意・不得意の差や、周囲との関わりの中でのミスマッチなどのため、年齢を重ねるほど社会生活に困難が生じやすい。本人や養育者に対する支援は早いほど効果的と考えるが、金沢区ではどのような支援を行っているか。

発言の
要旨

鎌田こども家庭支援課長：御指摘のとおり、早期の支援が効果的と考えており、養育者への気づきを促す必要がある。事業としては乳幼児健診、親子教室等があり、専門職による相談や働きかけを行っている。

その他の区独自の取組として、公立保育園の園庭開放で発達の支援をおこなっている。園児と遊ぶ様子を通し、こどもの発達の道筋を見ることができ、児の姿を客観的に見ることができる。また、養育者が保育士より児への関わり方を学ぶこともできる。

竹野内議員：様々な取組をしている中で、養育者の気づきが支援の大きな壁になっていると考えている。非常にデリケートな問題である中で、養育者が子どもの姿を客観視できる園庭開放等は効果的な取組と考えるが、その後の切れ目のない支援も重要になってくる。地域や関係機関との連携はどうなっているか。

鎌田こども家庭支援課長：金沢区では、平成 28 年から自立支援協議会の中に児童部会を立ち上げ、関係機関同士の横のつながりの強化を図っている。また、発達障害時の養育者同士が集うサークルもいくつかあり、地域子育て支援拠点「とことこ」が中心となって連携を深めている。

竹野内議員：発達障害を認識しないままであれば、後に様々な問題につながる。今後も積極的な支援をお願いしたい。

《 3 令和2年度 金沢区予算編成の考え方 》

小幡議員：重点取組項目のうち、「金沢の魅力をもっと発信！」について、政策局や文化観光局では、同様の取組項目に関する目標にストーリー性を演出している。区でも、地域の歴史的なストーリーなどを意識した目標設定をしてほしい。

また、八景島の来場者数も落ち込んでいる。令和2年度は、金沢の魅力を強く発信するような事業を実施してほしい。

國原区長：今年度は観光協会の事務局長を専任化した。また、金沢区のシティガイド協会の活動も活発である。来年度は関係機関への働きかけを強め、観光PRを行っていききたい。

小幡議員：観光協会の機能を活かしきれていない部分も見受けられる。観光協会の力をより活用してほしい。

竹野内議員：どの取組項目も重要であるが、区の大きな課題には人口減少がある。区の強みとしては、観光資源の他にも自治会・町内会の加入率の高さもある。引き続き、活気ある地域の皆様の助けを借りながら事業を行うとともに、地域への支援を積極的に行ってほしい。